

## 若者会議【ふせの風】

初仕事 子どもたちにかかわろう 自分たちの魅力と地域の魅力を伝えるために  
奥出雲町 布勢公民館

### 1 布勢地区の概要

布勢地区は、奥出雲町仁多地域の北西部に位置し、松江市、出雲市、雲南市からの玄関口にあたる地域である。地域内は南北に主要地方道玉湯吾妻山線が走り、また、JR 木次線の沿線上にあり交通の便は比較的良いところである。古代の遺跡や出雲神話に関する伝承も多く残っている。

人口 1,266 名 世帯数 452 世帯 高齢化率 39.6%である(平成 31 年 1 月現在)。産業は農業が中心で、ほとんどが兼業農家である。観光では、多根自然博物館や長者の湯の温泉施設があり、訪れる人も多い。

公民館は旧小学校の跡地に建設され、近くに幼児園がある。朝から夕方まで元気のいい子どもたちの声が聞こえるすばらしい環境の中にある。

### 2 事業の趣旨

#### (1) 地域が期待する若者の姿

- ・若者同士が活発に交流する
- ・地域活動に積極的にかかわる

#### (2) 若者の現状

- ・交流する場所や機会が少ない
- ・地域にかかわる必要性を感じない
- ・普段、地域にかかわらないので、かわり方がわからない
- ・休日出勤や夜勤等で活動に参加できない

#### (3) 現状をふまえて

公民館は、若者の現状をふまえて、自分の生活ペースで参加・交流・活動するきっかけづくりに取り組む。若者が活動しやすい形で地域にかかわり始

め、活動が定着させることで、地域を動かす、担う人づくりにつなげる。

今年度は、子どもたちにかかわる活動を行うこと、その中で「自分たちも楽しむ」「交流・活動を次に繋ぐ」「魅力みつけと魅力づくり」を大切にすることの3つを共有し、事業を展開する。

### 3 具体的な取組内容

#### (1) 案山子づくり

小学校の米づくりに案山子づくりでメンバーがかかわった活動である。

メンバーの意思疎通も充分でなく、リーダーもいなかったなので、活動は公民館が主導し、メンバーの関係づくりが出来るよう働きかけた。

#### (2) チーム名をつける、Tシャツ作成

公民館からチームに名前をつけてはどうかと提案し、メンバーの活動への意欲や意識を探った。名前の候補を出し合い検討し、チーム名「ふせの風」に決定。Tシャツも作った。

#### (3) 水鉄砲で遊ぼう会

水鉄砲を自作する班、昼食で太巻きを作る班、水鉄砲遊びを考える班を設置し活動した。班編成も自分たちで考え、活動への意欲も高まっており、取



(布勢のギネス挑戦 太巻きづくり)

組を任せるようにした。公民館は地域講師の紹介、チラシづくり、ケーブルテレビの依頼を行った。職員もメンバーの一員として参加した。



(水鉄砲あそび)

#### (4) 文化祭おでんの店出店

「来年の活動資金を稼ごう」というメンバーの声で行った文化祭出店である。公民館は文化祭実行委員会との調整や地域の方を巻き込むことなどでかかわり、メンバー主導での活動となった。

#### 4 評価と成果（ふせの風）

- (1) できること、やりたいことをメンバーも楽しみながら活動することで、主体的な取組へと変化した。
- (2) 地域の方との出会いや協働の楽しさを知ってもらうことができた。
- (3) メンバーは活動のコツを見つけ、活動に自信が持てるようになった。
- (4) 活動のレジメや板書で効率的な進行ができるようになった。
- (5) 会合案内をメールからラインにして、書き込みが活動のヒントになり、仲間意識も強くなった。
- (6) ホームページやSNSで活動を発信し、多くの方に活動を知っていただく取組を始めた。
- (7) 若者が町内のいろいろな研修会や会合に積極的に参加するようになり、地

域活動への意識が高まってきた。

- (8) 計画された活動のほかに、自分たちでやりたいと声上がり、雪を楽しむ「ふせの北風雪合戦」を実施した。

#### 5 今後の課題と見通し

〈公民館のかかわりとして〉

- (1) やりたいこと、すべきことに気づき、行動するふせの風をめざすためには、活動を継続することが大切である。公民館が活動を進めるのではなく、話を聞いて、かかわり方を話し合いながらサポートする。
- (2) メンバーや参加した人がみんなでかかわり、みんなで作り上げることが、本実践のキーワードと考えている。一緒にかかわりながら活動を作り上げる過程を楽しめる人を増やせるよう、キーワードを意識して活動を組み立てられるようサポートしていく。
- (3) 地区内の諸団体に活動を伝えて、互いに有用な情報は共有する。また、地域の方を活動に巻き込むことを、人材リストの作成で進める。
- (4) 多くの方に、ふせの風やグループの活動を知ってもらえるよう、広報活動を進める。
- (5) メンバーが固定化しないよう、自分の生活ペースで取り組める活動趣旨を周知し、ふせの風加入への抵抗感を下げるよう働きかける。

地域の魅力を、見つけ・知り・作り・伝える活動をとおして、子ども達も一緒になって布勢を元気にしていきたい。また、“ふせの風”の活動を地域が動き出す起爆剤として、新しいグループの誕生や地域活動の活性化に繋げたい。

(文責：館長 山田伸二)